

科目名	中等教科教育法Ⅰ（保健体育）			担当教員	稲垣 良介
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED1JTM231
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	教育現場の経験を活かして、中学校保健体育科の授業づくりの基礎を講義する。また、グループワークを通して生徒のつまずきに対する指導法を学習する。				
到達目標及びテーマ	中学校の保健体育授業に関する指導法について、目標、内容、方法を理解し、習得し説明することができる。				
授業の概要	よい授業は何か深く考え、体育授業における観察・評価について学習する。また、体育分野における学習内容である運動の技能習得に関して、ネット型スポーツを題材に、生徒のつまずきに応じた手だてについて理解し、基本的な指導の方法を身に付ける。 【教育DX指定科目】 ① 初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目（ただし、BYODは未使用） 【デジタル技術利用 該当番号：①、③】				

授業計画	
第1回	授業の進め方と評価について
第2回	保健体育授業の目標
第3回	保健体育授業の内容・方法（水泳領域の内容に関する外部講師の講演を含む）
第4回	保健体育授業の構成要素
第5回	保健体育授業を支える諸知見及び理論
第6回	授業の観方① よい体育授業とは
第7回	授業の観方② 授業観察の視点
第8回	授業の観方③ 体育授業を評価・観察する
第9回	授業の観方④ 学習指導案の構造と展開
第10回	運動技能の向上とつまずき①球技を例にタブレット端末を活用して
第11回	運動技能の向上とつまずき②武道を例にタブレット端末を活用して
第12回	運動技能の向上とつまずき③陸上競技を例にタブレット端末を活用して
第13回	運動技能の向上とつまずき④技能の上達体系についてタブレット端末を活用して
第14回	運動技能の向上とつまずき⑤ 学習のまとめと意見交流
第15回	授業の総括／保健体育授業の構想と学習者のつまずき／試験

事前学修	2時間	授業の学習内容に応じてテキスト、配布プリントで予習する。 講義３０時間で２単位のため６０時間の自学自習時間が必要です。 事前・事後学修時間数は、各々２時間／回です。
事後学修	2時間	各回の学習内容をノートに整理し、重要事項をまとめること。小レポートに学習した内容の要点をまとめることができるよう整理すること。 講義３０時間で２単位のため６０時間の自学自習時間が必要です。 事前・事後学修時間数は、各々２時間／回です。
フィードバックの方法	レポートを授業内に返却し、個別にコメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	60%	学習プリントの内容30％、課題レポートの内容30％
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業の参加度・授業内の発言内容・試験

定期試験	0%	1 6 週目の定期試験は実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説保健 体育編	文部科学省	東山書房	978827815603	なし
体育・スポーツ・健康 概論	関 朋昭 編	ナカニシヤ出版	9784779517570	なし
中学校高校の体育授業づくり 入門第二版	鈴木 秀人編	学文社	9784762028649	なし
参考資料	・文部科学省『高等学校学習指導要領解説（保健体育編 体育編）』 「体育・スポーツ・健康概説」は、前期の授業ですでに購入しているかもしれません。 その場合は、新たに購入する必要はありません。			

科目名	中等教科教育法Ⅱ（保健体育）			担当教員	浜田 幸史	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JTM232
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	小学校教諭、中学校教諭・主幹教諭・教頭					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、保健体育授業の意義や教員の役割について講義する。					
到達目標及びテーマ	指導者基礎力、専門的な知識・教養（事業運営力）を身に付ける。 - 保健体育科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い等について理解する。 - 保健体育を構成している各運動領域、体育理論、保健について理解を深め、授業に積極的に参画しようとする。 - 年間指導計画、単元計画、単位時間の指導計画及び学習指導案を作成することができる。					
授業の概要	本授業は、学習指導要領の内容を基盤として、保健体育を構成している各運動領域、体育理論及び保健について解説し、学校における保健体育学習に対する理解を深めることをねらいとする。このことを通して、保健体育学習の「目標－内容－指導－評価」の一体化を図る指導の在り方や授業の構造について理解を深め、単元及び単位時間の授業計画立案についての基礎知識を習得するよう取り組む。 【デジタル技術利用 該当番号：①、③、④、⑥、⑦】 【教育DX指定科目】 ① 初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目(BYOD利用可)					

授業計画	
第1回	オリエンテーション、保健体育とは
第2回	学習指導要領とは
第3回	体育学習の指導①（体づくり運動）
第4回	体育学習の指導②（器械運動）
第5回	体育学習の指導③（陸上競技）
第6回	体育学習の指導④（水泳）
第7回	体育学習の指導⑤（球技）
第8回	体育学習の指導⑥（武道）
第9回	体育学習の指導⑦（ダンス）
第10回	体育学習の指導⑧（体育理論）
第11回	体育学習の単元計画・学習指導案の作成
第12回	体育学習の単元計画・学習指導案の作成
第13回	試験、保健学習の指導
第14回	保健学習の単元計画・学習指導案の作成
第15回	保健学習の単元計画・学習指導案の作成

事前学修	2時間	中等教科教育法Ⅰ（保健体育）の内容を復習し、文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」の基礎的内容を理解しておくこと。WebexまたはZoomを活用（授業開始前に伝達）するので、自身の情報端末にダウンロードし、基本的な機能を確認し、オンライン授業への参画をできるようにすること。
事後学修	2時間	中等教科教育法Ⅱ（保健体育）の内容を復習し、文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」の各領域の概要や重要事項を述べられるようにすること。また、自身の授業プランの目標、評価規準、指導と評価の計画、本時の展開等について、他者にわかりやすく説明できるようにすること。
フィードバックの方法	毎回、復習テストを実施し、重要事項等について解説をする。また、提出課題の内容を具体例として取り上げ、授業実践における指導上の留意点等について解説をする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	20%	重要事項等の理解
レポート	20%	体育分野・保険分野の学習指導案の質
上記以外の試験・平常点評価	60%	授業参画の状況、提出課題の質
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
別途指示	別途指示	別途指示	別途指示	別途指示
参考資料	1 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編、文部科学省、東山書房 2 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編、文部科学省、東山書房			

科目名	中等教科教育法Ⅲ（保健体育）			担当教員	林 陵平	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2JTM233
期待される学修成果	教科教育、自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	PBL(課題解決型学習)					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	教職課程では、学校現場において求められる最低限必要な資質能力を確実に身につけることが必須となる。体育教師に求められる能力としては、カリキュラム及び授業の設計能力、学習者の発達段階や能力に応じた教材開発能力、目標到達に向けた実践能力、授業の観察・分析にもとづく省察能力などが挙げられる。本授業では、これらの実践的能力を身につけ、“よい体育授業”を実践するための学びを深めることを目指す。また、体育・スポーツの現場に関連する問題（体罰・ドーピング・各種ハラスメント）を理解し、問題の本質および解決策について論じることができる。					
授業の概要	本授業では、体育科教育学における“よい体育授業”に関する知見を踏まえ、体育の授業づくりを疑似的に体験することで体育教師としての授業実践能力を高める。また、体育・スポーツの現場に関連する問題について理解する。 デジタル技術利用 該当番号：③、⑤ 教育DX指定科目：① 初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目(BYOD利用可)					

授業計画	
第1回	ガイダンス（学習の進め方の確認）
第2回	中学校（高等学校）保健体育科の目標および学習内容
第3回	“よい体育授業”の条件
第4回	体育の授業における4つの場面
第5回	体育の授業における各種方略①
第6回	体育の授業における各種方略②
第7回	実践研究において有効とされている教材・教具
第8回	授業の分析・省察手段
第9回	問題解決型の思考を取り入れた体育科教育指導法
第10回	子どもの発育発達
第11回	子どもの発達発育を考慮した指導モデル
第12回	運動部活動と地域総合スポーツクラブ
第13回	体育・スポーツに関わる問題点（体罰・ドーピング）
第14回	体育・スポーツに関わる問題点（各種ハラスメント）
第15回	講義のまとめ

事前学修	2時間	学習指導要領解説の該当箇所について事前に熟読し、内容について理解する。
事後学修	2時間	返却された課題コメントを読み、課題に対する新たな考えをノート等に整理する。
フィードバックの方法	提出された課題は全て確認し、必要に応じてコメントを付して返却する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	80%	課題による評価を行う。
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業への参加度および参加態度。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版体育科教育学入門	高橋健夫ほか	大修館書店	978-4469267013	なし
参考資料	中学校学習指導要領			

科目名	中等教科教育法Ⅳ（保健体育）			担当教員	稲垣 良介	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED3JTM234
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭					
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かして中学校の保健体育科の授業を実施する際の基本的な教授能力について模擬授業を取り入れて教授する。					
到達目標及びテーマ	中学校の保健体育授業に関する指導法について、目標、内容を明らかにしたうえで、方法について実践的に理解する。学習した内容について、模擬授業で活用することができる。					
授業の概要	各領域の学習指導案の書き方を学び、さらに模擬授業を行うことで、中等教育の体育科教員として保健体育の授業を構想する力を養う。 【教育DX指定科目】 ① 初等中等教育でのデジタル技術の応用や批判的検討を扱う科目（ただし、BYODは未使用） 【デジタル技術利用 該当番号：①、③】					

授業計画	
第1回	授業の進め方と評価について
第2回	保健体育科の目標・内容
第3回	保健体育科の方法
第4回	学習指導案の作成に向けて① VTR授業観察
第5回	学習指導案の作成に向けて② 目標設定の仕方
第6回	学習指導案の作成に向けて③ 展開の仕方
第7回	学習指導案の作成に向けて④ 技能の発達
第8回	模擬授業①球技 バレーボール
第9回	模擬授業②球技 バスケットボール
第10回	模擬授業③体づくり運動
第11回	模擬授業④器械運動 マット運動
第12回	模擬授業⑤器械運動 跳び箱運動
第13回	模擬授業⑥陸上競技 走り高跳び
第14回	模擬授業⑦創作ダンス
第15回	授業の総括 体育授業の構想と実践/情報機器及び教材の活用法

事前学修	2時間	体育授業の指導案を書くための資料等を収集しておく。配布された模擬授業の指導案を読み、授業の展開について理解しておく。
事後学修	2時間	根拠を明確にしたカリキュラム作成方法を整理しておく。模擬授業とその後の協議会から、授業作りの具体的な方法について成果と課題を整理する。 講義30時間で2単位のため60時間の自学自習時間が必要です。 事前・事後学修時間数は、各々2時間／回です。
フィードバックの方法	レポートを授業内に返却し、個別にコメントする。 講義30時間で2単位のため60時間の自学自習時間が必要です。 事前・事後学修時間数は、各々2時間／回です。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	50%	レポート課題の記載内容
上記以外の試験・平常点評価	50%	指導案の完成度25％、授業への参加度25％

定期試験	0%	1 6 週目の定期試験は実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校学習指導要領解説保健 体育編	文部科学省	東山書房	9784827815603	なし
中学校高校の体育授業づくり 入門	鈴木秀人他編著	学文社	9784762028649	なし
参考資料	・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説（保健体育編 体育編）』			